

プロファイルリスト

1. 病名	Infection with <i>Marteilia refringens</i> マルテイルア感染症	
2. 病原体	<i>Marteilia refringens</i>	
	a) 分類	ケルコゾア門アセトスポラ綱 パラミキサ目(Paramyxida) マルテイルア (<i>Marteilia</i>)属
	b) 形態	・30 - 40 μmの虫体 ・孢子嚢形成
	c) 特徴	組織内寄生性を示す。 消化盲嚢上皮中で孢子を形成するため、感染貝の消化盲嚢上皮の構造は破壊され、栄養摂取が阻害される結果、飢餓状態となり死に至る。
3. 地理的分布	・アルバニア、クロアチア、フランス、ギリシャ、イタリア、モロッコ、ポルトガル、スペイン、スウェーデン、チュニジア、英国	
4. 宿主	(自然発症) ・ヨーロッパヒラガキ (<i>O. edulis</i>) ・ヨーロッパマイガイ (<i>Mytilus edulis</i>) ・ムラサキイガイ (<i>M. galloprovincialis</i>) (実験感染) ・ドワルフオイスター (<i>O. stentina</i>) ・マラガカミノソリガイ (<i>Solen marginatus</i>) ・ガリアハマグリ (<i>Chamelea gallina</i>) ・コウロエンカワヒバリガイ (<i>Xenostrobus securis</i>) ・イタボガキ類で感染の可能性有(未確定)	
5. 発生情報		
	a) 潜伏期間	—
	b) キャリアー	上述の宿主以外にも幅広い二枚貝がキャリアーになる可能性が考えられる
	c) 感染経路	・中間宿主が存在すると考えられる コペポダの一種 <i>Paracartia grani</i> は養殖池で関与 コペポダの <i>Acartia</i> spp., cyclopoida (ケンミジンコ類: <i>Oithona</i> sp.), harpacticoida (ソコムジンコ類) からDNA検出
	d) ベクター	動物プランクトン ・コペポダ類 (<i>Acartia discaudata</i> , <i>A. clausi</i> , <i>A. italica</i> , <i>Oithona</i> sp., <i>Euterpina acutifrons</i>) ・カニ類のゾエア幼生 ・線虫 (<i>Lineus gisserensis</i>) ・刺胞動物 (<i>Cereus pendunculatus</i>)
	e) 蔓延状況(死亡率、罹患率など)	・通常、夏季・秋季で死亡率は50 - 90 % ・罹患率は水温が高い時期に高い ・イガイ類の感染率は低いが死亡率は40 %、場合により100%に達する
	f) 感染ステージ	・幼貝及びそれ以降で感染 ・2歳以上で出現率増加
	g) 感染要因	・外海では発生せず、高塩分濃度と換水が関与
6. 症状		
	a) 臨床症状	本疾病に特徴的な症状はない ・開設状態 ・死亡率の増加 ・成長、成熟腺発達阻害 ・消化管の褪色 ・外套膜の退縮
	b) 組織検査	・変形体が消化管上皮中に多数確認 ・消化管中の孢子形成 ・グリコーゲンの消失
7. 検査法		
	a) 標的器官	・消化管、(鰓) ・糞便 (PCR検査用)
	b) 簡易検査法	ウェットマウント(孢子嚢)、塗抹標本(30 - 40 μmの虫体)
	c) サーパーラン	病理組織、PCR
	d) 確定診断	PCR、シーケンス
	(参考)ウイルス分離	
	培養細胞/分離培地	—
	培養条件	—
	CPE/コロニー性状	—
	その他	—
	(参考)PCR	
	DNA 抽出法	市販のDNA抽出キット ・PCR:ITS1 (internal transcribed spacer) region
	プライマー、産物サイズ	F: 5' -CCG-CAC-ACG-TTC-TTC-ACT-CC-3' R: 5' -CTC-GCG-AGT-TTC-GAC-AGA-CG-3' 増副産物の塩基配列を決定して確認する。
プロトコル	94°C 5分 94°C 1分, 55°C 1分, 72°C 1分 (x 30サイクル) 72°C 10分	

8. 対 策		
	a) 殺菌・滅菌方	—
	b) ワクチン	—
	c) その他	・低密度飼育、マガキなどの非感受性貝類との同居が効果的
9. 発生事例		・ヨーロッパのヒラガキに寄生
10. その他		・宿主外で2～3週間生存

本記載は2020年4月時点で最新のOIEマニュアルに従った